

# 第21回 安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館

# 研究活動発表会

動植物の保全や飼育・栽培・展示など、3施設における日々の活動を通じて得られた専門的知見のうち、今、市民の皆様に伝えたい内容について、担当職員がわかりやすく解説します。

日時：令和8年2月7日（土）14:00～16:00

（開場13:30、入場無料）

会場：5-Days こども文化科学館アポロホール（広島市中区基町5番83号）

## 講演演題

### ・被爆樹木と当園の取組～世界に広がる被爆樹木～

広島市植物公園 管理課 技師 中原 祥之

### ・国内初のマルミミゾウ繁殖～アオ誕生の舞台裏～

広島市安佐動物公園 飼育・展示課 技師 原 廣史朗

### ・昆虫採集のためのトラップに着目した企画展

広島市森林公園こんちゅう館 技師 内田 隼人

## 被爆樹木と当園の取組～世界に広がる被爆樹木～

広島市植物公園 管理課 技師 中原 祥之

植物公園では広島市が被爆80年を迎えるにあたり、市民の皆様に被爆樹木をとりまく様々な話題を提供するとともに、未来に向けて平和を紡ぐ被爆樹木の種子についても紹介し、平和の大切さについて、若い世代にも考えてもらうきっかけになるように、被爆80年特別企画展「被爆樹木」及びノルウェーのアーティストによるアート展「Hibakujumoku - the trees in a community - Kikyo 帰郷」を開催しました。

広島市では、爆心地から概ね2km以内で被爆した樹木を被爆樹木として登録しており、令和7年4月1日現在、159本の木々が被爆樹木として登録されています。被爆樹木やその2世は平和の大切さを伝える「被爆の生きた証人」であり、これからも重要な役割を担っていくと考えられます。

当園は2012年（平成24年）12月にグリーンレガシーヒロシマ(GLH)から協力依頼を受けて、今日まで45か国に被爆樹木の種子を発送してきた他、毎年採取している被爆樹木の種子を保管する役割を担っています。イチョウやエノキなど10種類の種子を種子貯蔵庫にて保管しており、発芽したものは育苗しています。また、発送した被爆樹木2世の栽培に関する相談を受け、定植の方法や育て方などについてのアドバイスも行っています。

発表では、本企画展やアート展、被爆樹木の種子の発送などの当園の役割についてお伝えします。



# 国内初のマルミミゾウ繁殖～アオ誕生の舞台裏～

広島市安佐動物公園 飼育・展示課 技師 原 廣史朗

2025年8月5日午前4時55分、日本で初めてマルミミゾウの赤ちゃん、雄の「アオ」が誕生しました。母親である「メイ」の妊娠が確定してからは、施設の改修やクラウドファンディングの実施、出産前後における対応フローチャートの作成などを行ない、誕生の時を待ちわびていました。ところが、予想よりも早くアオは誕生し、突然の出会いとなりました。幸いにも、メイはアオの起立を促すなど落ち着いており、職員が発見した時には親子で寄り添って過ごしていました。しかし、喜びもつかの間、出産時から授乳ができていないことが判明しました。仔ゾウの免疫獲得のためには、母親の初乳を飲むことが重要であるとされているため、早い段階で初乳の代替として事前に準備していたメイの血漿を与えました。その後しばらくは、人工哺乳によってアオの成長を支えていましたが、同時に母親による授乳を促すための様々なアプローチを行なった結果、生後7日目に授乳を確認することができました。それから現在に至るまで、アオはメイのそばですくすく成長しています。本発表では、アオ誕生の裏で繰り広げられた、担当者や獣医師が悪戦苦闘した舞台裏をお伝えします。



## 昆虫採集のためのトラップに着目した企画展

広島市森林公園こんちゅう館 技師 内田 隼人

こんちゅう館では毎年5回、企画展を実施しています。これまで開催した企画展の多くは「昆虫そのもの」に着目したものでした。そこで、今年度の6月に、昆虫を採集するためのトラップに着目した企画展「虫の捕り方～昆虫トラップ大作戦～」を実施しました。

本企画展では、カブトムシやクワガタムシなどを採集するための「糖蜜トラップ」や、コガネムシやガなどを採集するための「ライトトラップ」など、6種類のトラップについて紹介しました。展示物を作製するにあたり、「より多くの来館者が様々な視点から楽しめる」内容にすることを心掛けました。トラップの仕組みに関する詳しい解説に加え、ジオラマ展示やゲーム感覚でトラップへの理解を深めることができるコーナー、トラップにかかった昆虫になりきれるフォトスポットコーナーなどを取り入れることで、昆虫に詳しい方からそうでない方まで、より多くの来館者が楽しめるような展示を試みました。

発表では、本企画展で取り入れた展示方法に加え、それらに対する来館者の反応、また「昆虫そのものではない」点に着目した企画展を実施して感じたことなどを紹介します。



主催：公益財団法人広島市みどり生きもの協会

問合先：広島市植物公園 Tel082-922-3600

※公共交通機関を利用してお越しください。